

いたちかわらばん

鮎川・狹川・川原番・瓦版 冬号



版画 宗森英夫

《神戸橋》ここから狹川小川アメニティが始まる

いたち川・小川アメニティ
神戸橋（二つとはし）から長倉町までの区間は、川の中に大きな石が「飛び石」のように配置されていて、それをつたって歩いていきます。以前は、神戸橋↑八軒谷バス停の区間でしたが、昨春、権現橋↑長倉町が開通し、小川アメニティの距離が長くなりました。（全長約六〇〇メートル）

上流部なので、水がきれいで、アブラハヤやメダカが泳いでいます。夏は涼しく、春にはイワタバコが薄紫の花を咲かせ、秋にはツリフネソウが赤紫の花を咲かせます。

途中、昇龍橋の側を通りますが、昔はこの橋を渡った奥に白山神社があり、この付近の土地は租税が免除される神社領であり、神戸（二つとはし）と呼ばれてきました。

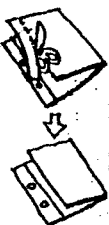
八軒谷は、文字通り八軒しか民家がなかったのだそうです。相武トンネルができるまでは、山の上の峠を越えなければ、六浦の方へは行けなかったため、八軒谷より奥には民家はなかったそうです。

今では、庄戸や野七里、長倉町などが開発され住宅が建ち並んでいます。しかし、いたち川小川アメニティは、住宅街がすぐ近くあることを忘れさせるような静かさがあります。

（つむぎ）

※小川アメニティ…水辺の散歩道。小川のせせらぎを利用した憩いの場。横浜市内に数十ヶ所ありますが、栄区内にも六ヶ所あり、いま七ヶ所目が整備される予定です。

この部分を切り取ってファイルすると便利です。



「栄区民話紙芝居」お披露目公演に寄せて

去る12月12日（日）、栄図書館開館十周年記念企画として制作された「栄に残る民話の紙芝居」三作が栄公会堂で披露されました。

第一部は、ほぼ満席に近い状態で幕を開けました。第一作『長倉の池ものがたり』は、原和子さんの作曲、演奏と共に、脚本と画を制作された大泉ひろ子さんの語りで始まりました。父を想う少女と大蛇のやりとり、会場もハラハラ、ドキドキでした。第二作は『大山の雨ごい』。再び原さんの情熱あふれる演奏と、語りには版画を制作された宗森英夫さんが加わります。版画の迫力と息もつかせぬ展開に、会場が一体となりました。最後は子どもアトリエ（小林節子さん主宰）の子ども達の共同作品『いたちばし』。橋に対する思いと村人の優しさを13人の小学生が力を合わせて丁寧に語りました。三作品の語りと演奏は、それぞれの持ち味を生かして、心に届くものでした。観客の感動は大きな拍手となって会場全体を包み込みました。

第二部は栄少年少女合唱団によるコンサートで、カラフルな照明の下、かわいらしい歌声が響きました。ロビーでは原画が展示され、印刷された作品との違いなどを熱心に見比べている方も多くいました。配布された各所で活用されることでしょう。…ほのほのとした気持ちで会場をあとにしました。（すみれ）

西上郷第一公園づくり ワークショップ

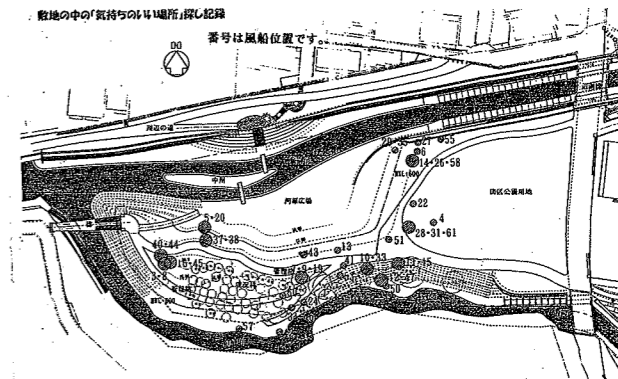


昨年12月4日（土）稲荷橋下流の公園づくりのワークショップが開催されました。

テーマは、河川工事が終了した後の新河川と旧河川間の公園を利用者の立場で計画しようという試みで、子どもからお年寄りが思いを語りながら、お互い理解しあい、よりよい公園を作ろうというもので、小学生、PTA、周辺住民、いたち川のボランティアグループなど60名が参加し、我が「いたち川お助け隊」からも2名と、スタッフ側に3名が出席しました。

はじめに、7つのグループに分かれお互いの顔の似顔絵を風船に描いて親睦をはかり、「お祭り」の思い出を発表。その後公園予定地に集合し、自分の気持ちのいい場所に風船を置き、どうしてその場所を選んだか考え意見交換をし、最後に興味を引いた植物の葉っぱを持ち帰り、植物の名前や解説を聞きました。

次回は、1月15日に予定地で「さいと焼き」（どんどん焼き）をやることを決め解散しました。（水人子）



隊員からの新年のメッセージ

- ◆20世紀から21世紀へのかけはしの今年、「いたちかわらばん」が川にかかわる人々の「かけはし」となりますように。読者の感想やご意見を楽しみにしています。（うぐいす）
- ◆今一度アレをやってみよう。川をせき止め分流させる。本流が干上がりナマズ、ウナギ、ドジョウ、フナ、ハヤ、ヨシノボリの手づかみ。いたち川の河干した。（川守）
- ◆2000年、たつ年にちなみ、出で立つ川いたち川をいま一度見直してゆきたいです。（とりずき）
- ◆我が町の誇り、いたち川。その変貌を今年も見守って参ります。（坂田）
- ◆地域に根ざした活動を今年も活発に展開しようと思っています！（すみれ）
- ◆今年は、より多くの人たちと接し、お話ができる機会をつくりたい。（水人子）

- ◆「今年にはコンピュータで点字に挑戦」なんとかマスターして続けていきたいと思っている。（秋海）
- ◆1000年に一度しかめぐりあえない2000年の節目を経験出来たことは、私にとって大変な喜びです。1000年前のいたち川は？栄区は？横浜は？日本は？世界は？と思いをはせると次の3000年に向けて私達がいたち川をどう守っていくか。人の生活、社会の変化とどう調和させていくか。大変な課題を負っています。「大きな下水管に埋設したいちち川」などと言うことにならないよう1000年先の姿を思いながら、皆さんと一緒に考え、実現に頑張ります。（源・みなもと）
- ◆病める地球を救う為のお手伝いの輪が少しずつ広がっています。感謝…（いたちの父さん）

- ◆私たちの住む美しい星を破壊から守る為に無理をしないでできることから始めよう…（あひる）
- ◆2000年という節目の年を迎え気持ちを新たに、OTASUKE隊の皆様が益々健康で活躍し、いたち川がやがて日本一いや世界一の川になることを隊員の一人として祈念します。（黄ショウブ）
- ◆4月から鶴見川流域に働きに出ています。休日も出かけることが多く、いたち川流域人としての暮らしがおろそかになってしまいました。2000年はもう少しバランスを取ることにします。（AKUTO・HIROSHI）
- ◆新しいいたち川の流域史を皆で作っていきましょう。（のうさぎ）
- ◆『せせらぎ』心の故郷。『瀬と淵』人生いろいろあらあな。『流れ』水も時も…。今、私たちにできることを、みんなで。（いもり）

発行年月
2000年1月
(通刊8号)

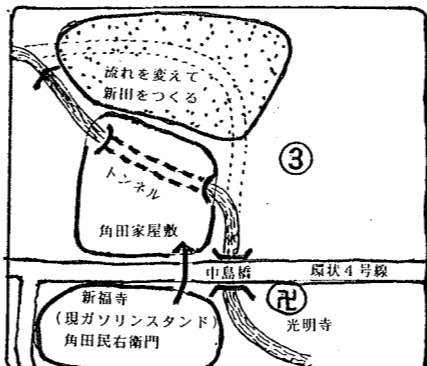
発行：狹川OTASUKE隊（いたちかわおたすけたい）
OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ケ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

いたち川の橋と言い伝え (Part 2)

①青葉橋と葉月橋

「青葉橋」は、証菩提寺の前にあったので、昔は「寺橋」と呼ばれていたようです。昨年、新しく開通した「葉月橋」は青葉橋と尾月橋の間にあるので、葉月橋と名付けられました。

②元中島橋



③民家の地下を流れる川

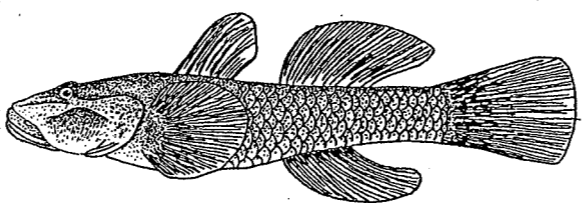
江戸時代、いたち川は光明寺裏手から中島橋下を通り、山の端の下を流れていました。文化文政の頃、角田民右衛門さんという人が左図のように川の流れを変え新しい田圃を開発しました。水は岩をくり抜いたトンネルの中を流れ、現在に至っています。ちょうどその上に角田家が家を建てたため、民家の地下をトンネルが通り川が流れている訳です。(通称新福寺・現在ガソリンスタンド)
※民有地なので通れません。

④石の橋

庄戸郵便局の下の方に梅沢堀という小川が流れており、昔、そこに梅沢橋と呼ばれた石の橋が架かっていたそうです。今では埋められて姿を見ることができません。また、千載橋の側にある経堂橋も石の橋で、その付近に経堂があったから経堂橋といわれています。よく知られている昇龍橋と同じ頃に造られたようです。

②大内川橋だった中島橋

現在の「中島橋」は、昔「大内川橋」と呼ばれていました。旧日本海軍が追浜飛行場(現・日産自動車工場)と海軍燃料廠(現・本郷台駅前)を結ぶ道路をつくったとき、橋を架け直し、この地が中島なので中島橋と名付けました。そして、元からあった中島橋を「元中島橋」にしました。



いたち川三河辺の生き物の
ハゼ科の魚(ハゼ科の仲間は海を往來する)

昨夜、柏尾川といたち川の合流点で行った調査では、2センチ程度の稚魚がのぼっているのがたくさん見られました。成長すれば、せいぜい10センチ程度です。
いたち川のヨシノボリは、斑点の模様などの特徴から「トウモロコシノボリ」の種類にあたるそうです。雑食性で、水生昆虫や付着藻類を食べています。
いたち川全域で見られますが、瀬上沢小川アメリイなど石をひっくり返してみても、石の下に隠れているのを発見できません。ヨシノボリは、冬になると石の下に潜りこもります。
ハゼ科の魚は、よく見られる「ヨシノボリ」も腹じしが吸盤のようになっていて、それで石にへばりつき、かなりの急流でも平気でのぼっています。
日本では、多くの川は、海とつながっていますから、いたち川にも、海とつながりをもつ魚がいても不思議ではありません。(いも)

十一月に結婚した息子達がお世話になっている栄区、彼らは公団団地に居を構えたのです。友人にその話をした時に、その友人は目を輝かせて、いたち川の遊歩道のことを話して下さいました。そして何かいたち川にメッセージを、依頼されたのです。
また松の内の暖かい日、夫と二人で警察学校のあたりから、いたち川をのぼりながら歩きました。鯉の沢山泳ぐ静かな川に魅せられました。警察学校の前に梅が寒桜が小さな白い花に目をこめて、しばらく佇んでいました。春を感じたのです。遊歩道を歩いている人たちのゆつたりとした姿、しばらく行くと川の中にいたちの石像を発見したのです。なんと斬新なアイデアでしょう。村人に優しく話しかけたいたちの家族の食卓をイメージしたと聞いています。川を愛する人たちのこまやかな思い、川におよぶカルガモ、白鷺、暖かな冬の日差しを楽しんでいるようでした。
川はほとり色づいた五色南天をみながら上流に進みました。天神橋のほとりに蒲の穂をみつけたのです。いなほの白鬼の伝説を思い出しました。私は逗子のス木川にも同じ風景を見ていたのです。川のある風景は、いつも同じ人に和やかさを与えてくれます。いつかは孫も住むこの川に、いつまでもかしてを感じていこうと思います。(監・逗子市在住)